傳法（でんぽう）

昨年の夏、四名の方の傳法が終了しました。傳法とは、当社に御師（神職）として奉仕させて頂く許可を受ける為の伝統行事です。ここで将来の武蔵御嶽神社を担っていく若者達四名をご紹介いたします。

原島家後継者（十七歳）
原島 瑞葵

傳法を終えて思ったことは、「普段こんなに贅沢をしていたのか。」と、実感しました。

傳法中はおかゆ、お味噌汁が基本で肉や魚が食べられず、育ち盛りの自分にはとても辛かったです。一番辛かったのは、朝夕の禊もありますが、自分としては食事が辛かったです。

傳法を終え、改めて自分の周りを見てみると、自分がどれだけ贅沢をしているかがはっきりと解りました。この経験を糧に将来に役立てられれば良いです。

ご指導有難うございました。

須崎家後継者（十八歳）
須崎 晃輔

今回、私を含め四名が社家の後継者として伝法を受けました。

全てが初めての事ばかりで正直とまどう事ばかりでしたが、初日の開講式で金井先生が、「伝法をすることは、御岳山の長男として生まれたからには宿命である。」とおっしゃっていた言葉を胸に、みんなと頑張れた気がします。

火おこしから始まり、食事は毎食おかゆに納豆や豆腐を食べ、早朝と夕方の禊。昼間は作法や祝詞の練習など多くの事を学ばせていただきました。

伝法の最終日には、伝法修了奉告祭を四人で奉仕させていただき、お世話になった金井先生に練習の成果を見せる事ができた事は本当にうれしく思っています。

また、この伝法は御岳山の方々に支えられ行われている事も知り、心からお礼申し上げます。

今後は今回の経験を生かして、神主としてしっかり勉強をしていきたいと思っております。一週間ありがとうございました。

須崎家後継者（十九歳）
須崎 直成

一週間耐え抜いたというのが一番の感想であります。

ある種軟禁のような状態で神社に籠もり修行に臨みました。

祝詞をはじめ神前でのマナー、祭の執り行い方など、様々なことを教わりました。しかし最も厳しく最も記憶に刻まれたのは、朝夕の綾広の滝での滝行であります。早朝の八月とは思えない気温の中で滝を浴び、深々と体が冷え夏にして凍えました。

また共に一週間を過ごす仲間においても、御岳山出身者の中では最年長ということで、後輩達を引っ張り彼らの手本とならねばならないと、その責任を念頭に、真摯に修行に対して向き合えたと思っております。

このように人生で最も「神道」という宗教に触れた一週間でありました。そして自分が神職の家に長男として生を受けたことを痛切に再認識すると共に、自分の将来について真剣に考えさせられる一週間でありました。

北島家後継者（四十四歳）
北島 知生

この度、二〇一五年八月二十二日から二十八日までの一週間、一〇代の男性三人と私、四〇代一人の計四人で伝法を受けました。

神主家に婿入りして八ヶ月、新たな人生のスタートです。修行前は、この一週間無事乗り越えられるのか不安で一杯でした。しかしながら、とにかく乗り越えるしかないという強い気持ちを持って臨みました。

初日にまず行ったのは火熾しでした。高校生の体力のお蔭ですぐに火種が出来たのですが着火までは至らず、結局一時間以上かけてようやく火を熾すことが出来ました。

昼間は毎日大祓詞等を朗読、そして作法の練習、奉告祭に向けての実践的な練習等を行いました。特に難しく感じたのは、進み始める時の初めの一歩の出し方（右足から出すか、左足から出すか）で、頭の中で考えながら必死に練習していました。座ったまま進んだり退いたりする、膝進（しっしん）・膝退（しったい）も非常に難しかったです。

朝は毎日五時半、夕方は三時半に社務所を出発し、滝まで三十分歩いて行き、滝行を行いました。この週は八月にも関わらず気温が急激に下がり、朝の気温は十度代前半という寒さ、そして滝へ行く時間はほぼ毎回雨が降り、道はぬかるみ、慣れない雪駄で歩く中、何度も転びそうになりました。滝行では雨の影響で滝の水量が多く、水流の強い時もあり痛さを耐えていました。このような悪天候の中、一週間無事に滝行を終えられたのも、若い皆さんと一緒にお互いを励まし合いながら一週間を過ごせたお蔭だと思います。過去には独りで伝法を受けられた方もいらっしゃるようですが、とても大変だっただろうと修行中に何度も思っていました。

最後に金井先生をはじめ滝行等でご指導、ご協力頂きました皆様方、大変感謝しております。有難うございました。

また、お祝い、差し入れ等を頂いた皆様方有難うございました。伝法中の食事は、基本的にはおかゆとお味噌汁、それに差し入れして頂いたお豆腐、茄子、ピーマン、梅干しなどを美味しく頂きました。

皆様方のお蔭で無事伝法を終えることが出来ました。

伝法が終わり、今は祓詞等を日々勉強しております。まだ右も左も分かっておらず、これからも皆様にはご迷惑をお掛けするかと存じますが、武蔵御嶽神社の今後の益々の繁栄の為に一所懸命努めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

御嶽神社あれこれ
復活！懐かしの我が学び舎

楽しそうな話し声に振り返ると、学校へ向かう子供達の楽しそうな姿に顔がほころぶ。時計は八時十五分、いつもなら一時間以上前に見られる通学風景、始発のケーブルカーに乗るため足早に駅へ向うのだ。しかしそのケーブルカーは巻き上げ機更新のため約三カ月間の運休中。学校へ通えない子供達の為に、この期間だけ「御嶽学校」が復活したのだ。そのおかげで子供たちはゆっくりと登校を楽しんでいる。

遡ること百余年、明治九年に開校し多くの御岳山の子供たちを育んできた御嶽学校。昭和六十一年に二人の生徒を送り出したのを最後に閉校となってしまった。集落の住人は御嶽学校に通った者が多く、この私もその一人。

戦前と昭和 40 年頃の分校

今回復活した御嶽学校は、分校の跡地に建てられた「ふれあいセンター」で開校され、小さなグラウンド（広場）や体育館もある。三名の先生が本校より派遣され、保護者が交代で先生の送迎をしている。給食も保護者が配達しているが、臨時学級としては私が通っていた頃より設備は整っているかもしれない。

子供達は一、二、三年生が三名で複式学級一クラス、四年生四名と五年生二名は背中合わせに座り、前後の黒板で授業を受けている。その和気藹々（わきあいあい）とした授業を眺めていると、なんとも懐かしい。私が通っていた頃は七名の児童に先生一名の複式学級、給食は「給食のお兄さん」がケーブルに乗って運んできてくれた。途中転倒して急遽（きゅうきょ）カップラーメンが給食、雪が降れば体育は雪合戦にそり遊び。先生と集落を散策しては、ご近所でお茶をもらって長居をする、なんて事もあった。授業はあまり思い出せないのだが、楽しかった思い出は心の中に沢山詰まっている。

そんな御嶽学校が臨時開校して数日後、雪の中子供たちが神社へとやってきた。二、三年生の男子を先頭に、嬉しそうに先生と参道を歩いてくる。声をかけると道徳の時間で先生に神社を案内していると嬉しそうに答える。いつもと違う学校生活を目一杯楽しんでいるのだ。たった三カ月間の御嶽学校だが、子供たちの心が躍らないはずはない。きっとこの御嶽学校は子供達にかけがえのない思い出となって心に刻まれることだろう。

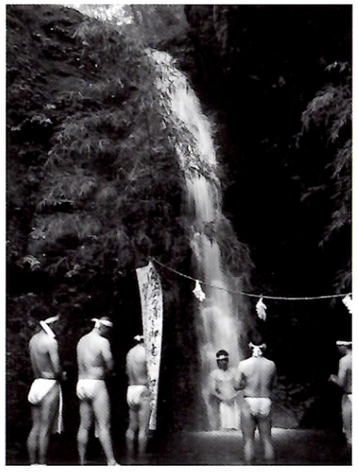
修行体験講座

毎年多くの方にご参加いただき有難うございます。

深山から湧き出でる清き水にて、日々の罪穢れを祓い清め、新たな自分と向き合えるでしょう。「けがれ」とは「氣枯・希枯・食涸」を表し、生きるために必要な意思や思い、食への力などが弱まっている状態を指します。御嶽大神のご神徳を頂き、明日への第一歩を強く踏み出しましょう。

昨年より一泊二日の講座を一回とし、山駆けと滝行を一日で行う講座が出来ました。是非ご参加下さい。

一日修行体験講座
日　時　六月二十五日（土）
開催人員　三十名まで
費　用　一万円（申込金・五千円）

滝行体験講座
日　時　七月十八日（月）午後一時集合
費　用　五千円（申込時 全額振込）

修行体験講座
日　時　九月二十四日(土)～二十五日(日)
費　用　一万五千五百円（申込金・五千五百円）